

会 議 録	
会議の名称	令和6年度第3回清須市地域公共交通会議
開催日時	令和6年12月23日（月） 午前10時から午前11時50分まで
開催場所	清須市役所南館3階 大会議室
議題	1 開会 2 議事 〔報告事項〕 コミュニティバスの利用状況の推移について 〔協議事項〕 (1) 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について (2) 第2次清須市地域公共交通計画（案）について 3 その他 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席表 〔会議資料〕 資料1 コミュニティバスの利用状況の推移 資料2-1 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価の概要 資料2-2 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案） 資料2-3 令和6年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価及び地域公共交通計画の評価結果概要（案） 資料3-1 前回までの清須市地域公共交通会議からの修正点について 資料3-2 第2次清須市地域公共交通計画（案） 資料3-3 パブリック・コメントの実施について
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数	7人
出席委員	前田委員、山田委員、林（巖）委員、佐藤委員、柴田委員、加藤（榮）委員、鬼頭委員、加藤（博）委員、宮川委員（代理）、石屋委員（代理）、加藤（純）委員、多田委員、小林委員、大島委員、福田委員、河口委員、鈴木委員、高井委員（代理）、林（尚）委員
欠席委員	荻田委員、豊田委員
出席者（市）	なし
事務局	（企画部企画政策課） 林次長兼課長、山口課長補佐、神野課長補佐兼企画政策係長、蜂矢主任、市江主任 （株式会社日本海コンサルタント） 塩土副本部長、備後サブリーダー、小村氏

1 開会

(神野課長補佐兼企画政策係長)

皆さんおはようございます。

定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第3回清須市地域公共交通会議を開会します。

私は企画政策課の神野と申します。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、前田会長からごあいさつをいただきたいと存じます。

前田会長、よろしく申し上げます。

(前田会長)

皆さんおはようございます。

大変お忙しい中、本日の第3回清須市地域公共交通会議にご参画いただきまして大変ありがとうございます。また、委員の皆様方には、日頃から本会議の運営にあたり、多大なご理解とご協力をいただきまして大変ありがとうございます。改めまして、御礼申し上げます。

さて本日の会議では、皆様方のお手元でございます次第の通り、令和6年度地域公共交通確保維持改善事業及び事業評価(案)についてと、第2次清須市地域公共交通計画(案)について、ご審議していただくこととなりますけれども、どうか委員の皆様方には忌憚のないご意見を賜りまして、有意義な会議にして参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

簡単でございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。

(神野課長補佐兼企画政策係長)

ありがとうございました。それでは、本日の会議の出席状況について、ご報告します。

本日の欠席委員は、第4号委員で愛知県警察本部西枇杷島警察署交通課長の荻田委員と、第7号委員で東海旅客鉄道株式会社東海鉄道事業本部管理部企画課担当課長の豊田委員です。また、第3号委員で国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官の宮川委員におかれましては渥美様に、第4号委員で愛知県都市・交通局交通対策課担当課長の石屋委員におかれましては藤原様に、第7号委員で名古屋鉄道株式会社地域連携部交通サービス担当課長の高井委員におかれましては夫馬様に代理でご出席いただいております。

加えて、事務局といたしまして、地域公共交通計画策定支援業務の受託事業者である株式会社日本海コンサルタントの塩土様、備後様、小村様にもご出席いただいております。

皆様、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、これより議事に入りますが、ここで、事務局からお願いがございます。

当会議の議事録を作成するため、会議でのご発言にあたっては、次の2点についてご協力をお願いいたします。

まず1点目ですが、ご発言にあたっては、必ず挙手の上、会長の指名を受けてください。

2点目ですが、会長の指名を受けた委員様には、係の者がマイクをお持ちいたしますので、その都度、ご自身のお名前を仰っていただきながらご発言くださいますよう、お願いいたします。

それでは、ここからの進行は前田会長にお願いいたします。

2 議事〔報告事項〕コミュニティバスの利用状況の推移について

(前田会長)

それでは、ここからは私の方で会議の取り回しをさせていただきます。よろしく申し上げます。

まず、はじめに 会議録署名委員を指名したいと思います。

本日の会議の会議録署名委員は、佐藤委員と柴田委員にお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の次第のとおり、報告事項が1件、協議事項が2件です。

まずは次第の順に「報告事項」についての議事を進めます。

それでは、報告事項について事務局から説明してください。

(蜂矢主任)

【資料1を説明】

(前田会長)

ありがとうございました。

ただいま、事務局から報告がございました。ご意見、ご質問等がございましたら、挙手をお願いいたします。

(加藤副会長)

名古屋大学の加藤です。こうやってみるとだんだんと上がっていいなっていくふうを感じるというのは全体的にそうかもしれませんが、この令和6年度の後半は決してそうじゃなくて、前年のところと比べると下回ってるところもあることが直近なので、これをどういうふうにとらえたいか聞きたいのですが。

来年度もこの傾向のまま、補助年度の上半期でこれだったら、減になっていくという可能性が高いんですけど。多くの路線で下回っていますよね。春日が増えたから全体としてまだこうなっていますが、春日以外が大きく下回っていますよね。

(市江主任)

事務局の市江です。事業年度の後半、主に春から夏にかけて伸び悩んでいるという状況が続いている中で、記録的な猛暑という点も要因の1つとしては考えられるんですけども、ただその具体的な要因として明確な理由がまだ見つけられてないというのが現状であります。

そのため、来年度以降も利用促進事業を続けていくんですけれども、このやり方とかそういったことを工夫しながら模索しながら、利用促進の方を続けていきたいなと思っております。

(加藤副会長)

事業者さんとしては何かわかることないですか。

(大島委員)

つばめ自動車の大島です。

私どもの方でもちょっと把握しきれてない感じです。

(加藤副会長)

そういうのって把握しきれてない。それで御社はやっておられるんですか、会社経営は。

あんまり増えてないってデータが出たらわかんないからしょうがないな。それで終わらせてるんですか。つばめ自動車さんはそういう会社なんですか。いや、それはそれで構わない。

この会議に出て来られてわかんないって言ったら、そんなそっかって言うだけで終わらせないですね僕は。他んところだったら、いやそれはこういうこともあったと運転手が言ってますとかそういう話が出てくると思うんですけどね。

余計なことを聞きました。いいです。なきやいいです。

こういうことぐらい言っていたきたいですけどね。この会議がせっかくあるんだから。

(前田会長)

その他委員さんよろしいでしょうか。

(高井委員 (代理))

名古屋鉄道の夫馬でございます。よろしくお願いたします。

原因分析のところもそうなんですけども、1つ明るい兆しと私は個人的に受けとめたのは、このグリーンルートとの一昨年度から昨年度、豊公橋北というのが伸びてるという、ここだけ前年から比べて順位が変わったなというふうに私思っております、実は当然この湯吉郎という休むところがありまして、ここの利用は非常に車の利用が多いと。

私もこの庄内川の堤防を走るんですけども、やはり湯吉郎の渋滞で、ちょっと待たされるときも土日はあるということがありますので、今後の部分として、この湯吉郎をぜひバスで行けるようなご案内もしたらどうかということのご意見でございます。

以上です。

(前田会長)

ありがとうございます。その他に、委員さん、よろしいでしょうか。

それでは、報告事項については、これで終わります。

2 議事〔協議事項〕(1) 令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)について(2) 第2次清須市地域公共交通計画(案)について

(前田会長)

引き続き、「協議事項」に関する議事に移ります。

まずはじめに、協議事項(1)「令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)について」を議題とします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(蜂矢主任)

【資料2を説明】

(前田会長)

それでは、この協議事項について、ご意見やご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(宮川委員(代理))

愛知運輸支局の渥美でございます。

特に意見とかというのはないんですけど、補足的に今回事業評価ということで、フィーダー路線の補助金の評価みたいところで説明があったところなんですけど、次の議題にもある公共交通計画についての方が大切なのかなということがございまして、いわゆるフィーダーの補助金ってというのが、先ほども事務局さんの方から説明があった通り、公共交通計画に審議されて、必要という路線については国としても補助していきましようというところで、補助金の様式的には様式2-1、2-2までなんですけど、説明があった通り、計画を進めていく上で必要なものや重要なこととして、毎年度こうやってチェック評価をしていって、PDCAをまわして、より良い交通にしていきましようというところが本当のところだと思いますんで、そういったところを皆さん評価というかチェックいただいて、より良いものにしていただければと思います。よろしくをお願いします。

(山田委員)

山田です。

小学校の乗り方教室というのがずっと実施されているわけですが、小学生が今どれだけ乗っているんですかね。まずそれが1点。

それから乗車のお客様を増やすには、市内の寿会、老人会ですね、そういうところでも、事務局の方でPRとかしていただければ、老人が結局、私の近所でも乗り方がわからんとかそういう方もお見えになりますので、老人会の方へ清須市内かなりの老人会がありますので、そういう方々に乗り方を教育していただくことを私は要望しますし、もう1つ、先ほどの議題の中で名鉄さんの方から、豊公橋北じゃなくて、湯吉郎にした方がわかりやすいですよ。どうも豊公橋北っていうと私もどこなのかなと最初思ったんですけども。

湯吉郎に行くなら湯吉郎という行き先変更した方が私はいいと思います。以上です。

(市江主任)

事務局の市江です。

まず、一番最初の小学生の利用がどれぐらいあるのかっていうところがあったんですけども、今手元に具体的な資料が持ち合わせていないので、正確なことは申し上げられないんですけども、大体私の肌感覚的に小学生っていう限定ではなく無料の方、未就学児未満の無料の方になりますが、大体1割未満だったかなというふうに記憶しております。小学生になるともう一乗車100円と、一般の方と同じ扱いになってしまうので、そこを抜き出すことはちょっと難しいかなと思っております。

また高齢者の利用に向けての取り組みなんですけれども、昨年度に高齢者に向けてもっと利用してもらえるような乗り方のチラシを作りまして、寿会の会員の方にお配りしたところですが、今後そういった高齢者の方が利用しやすくなるような取組も考えながら事業を進めていけたらなと思います。

また、豊公橋北のバス停の名称につきましても、現在「豊公橋北」に括弧で湯吉郎というふうに書かせてもらっています。一般企業でありますので、そのような括弧書きにしたのではないかというふうに推察できますが、わかるような形では、今もやらしていただいているかなというところで考えておりますので、ご理解いただければと思います。以上です。

(山田委員)

山田です。

いろんなイベントのときに、バスを出して説明をされてるわけですけども、その効果というのはどのように評価されてるんですか。

(市江主任)

事務局の市江です。

効果の部分では、先ほどの説明でもありましたが、昨年度の2次評価のところ、アウトカムを意識した評価をされるようにコメントをいただきまして、本年度から乗り方教室に関しては、どれぐらい乗りたくなったかみたいなことをアンケートで図るようになっております。

また今後につきましても、乗り方教室だけではなく、そういったイベントにおいて、アンケート等などでどういった効果があったのか、把握していきたいなと思っております。

(加藤副会長)

今、山田さんがおっしゃったのは本当にその通りだなと思って聞いてました。いわゆる高齢者の団体さんっていうのは、皆さんにきちんと呼びかけて、ただその役員はみんな車の人ばかりだと思いますので、その方が乗るとはちょっと考えにくい。本当は乗っていただけるといいんですが、使いたいけど使っていない、よくわかってないっていう方にどう

やって届くかということをやることがとても大事なのは、基本的なことなんで、そこがやれてないとしたら非常に問題があるなと思って、山田さんのまさに肌感覚としては、周りに知らない人がやっぱ、僕の中で山田さんにそういう場合は乗り方のパンフレットを持っていただいてどうぞ配っていただくのもまずやっていただきたいなと思うんですけど、僕はそういうことをよく言ってるわけですね。パンフレットとかっていうのは、この委員でもみんな 30 枚ぐらい持って、そういう話があったらそこで配れるようにするとかね、そういうことをやっておかないといけないよと。散々そこらじゅうで言ってるんですがやってくれないんすよ。一番早いのに。

委員が P R する人じゃないと。委員しなかったら一体誰がするんですかと。一番知ってる人でしょとなります。常に 1 ヶ月に 100 枚ぐらい送りつけて全部配ってくださいというぐらい、そのぐらいやっていいんじゃないかと私は思ってます。

それを次の計画に書いてあっていいぐらい。皆様はそんな言われちゃっても配れないとおっしゃるかもしれませんが、そのぐらいのことじゃないかと思えますね。

それから小学生について出ましたけれど、やはり 1 つ言えるのは、この小学生っていうのは親御さんと一緒ではないですか、親御さんと一緒ですか。

(市江主任)

いえ、小学校 3 年生の児童のみになります。

(加藤副会長)

そうすると本人が乗りたいって言ったって、乗りたいとそのとき思ったとしても、親には何ら伝わってない可能性が高いので、ほとんど遡及しないとなります。

子供向けの乗り方教室は、親と一緒に来ないとあんまり意味がないということがわかっている。そういうところも考える必要があります。子供が喜んでる姿を見て、親御さんもちよっと乗ってみるかと思うと、親御さんと一緒に、本人 1 人で乗ることはあまり 3 年生だっただらなないと思いますのでっていう話だと思いますんで、そういうのは乗り方教室としてやるっていうのは、小学校でやるんだしたら致し方ないところなんですけど、イベントとかで車持ってきて、乗り方教室やるとか、例えば名鉄さんとか名鉄バスさんとかは、どこでも出かけてやってくれるということをいつも言っていたんで、お願いすることがあるんですけど、それはこのお祭りでやりましたっけ。

(市江主任)

実車のポンチョの方は乗り入れさせていただいて、子供たちが乗り込んで写真撮ったり、触ったりできる体験をしています。

(加藤副会長)

多分そっちの方が効果あるんだろうと思いますね。

その時に、例えばタダ券を何枚か配ったり、タダ券っていうのは回数券でいいですから。この場合、回数券をあげて乗ってみてやるとかっていうと、すぐ乗ってもらえる可能性が高い。回数券渡すって言ったら、無料券作ってもいいんですけどお金かかるんで、例えばそういうやり方とかもあり得るかなと。

来てくれた方にはそうやって配ると。そうやって試乗してもらいたいのかと。できれば試乗してもらってことは区別したいので、そこに試乗っていう判子押して配るとか、そうやってやれば後で集計でわかると、そういうふうに出カムも見ていくのも考えられるかなと思います。

あと今聞いてて思ったんですけど、私自身結構他のところのコミバスですと、小学生は10円にして、100円とか、その半額とかじゃなくて10円にしています。1つ大きな理由があって、10円は子供に運賃箱に入れてもらうってことなんです。これは乗り方教室とかやると、運賃を払うっていうのはすごくやりたがって、これと降車ボタン押すの2つが人気があります。それを日常的にやってもらうけど、親御さんの財布を痛めないとする10円をこれ入れてって入れるとすごい嬉しいと。例えばそういう都合があるんですよ。

100円なら100円を渡して入れたらいいんですけど、そんなことをやることも考えられると思います。なので、働きかけっていうのはもうちょっとやる余地があるなと思いました。

あとはすいません資料2-3についてちょっと何点かコメントしたいんですけど。

まず2ページですが、市内の移動利便性が低いという課題を抱えていたって書いてあるんですけど、これってあしがるバスがないときのことだから、もう何年前ですか20年近く前のことですよ。これを今書くのはちょっとおかしいんじゃないのかと。むしろ地域特性って書いたらもう単純に狭いので、きよすあしがるバスを運行することで、移動利便性を高めたっていうふうに過去形で抱えていたところじゃなくて、これをやることで、確保しているっていう書き方にするといいんじゃないのかと。

あとさっきに関連する4ページですけれど、例えば1日無料デーは過去最多と言ってるんですけど、同じ11月の日曜日に比べてどのくらい上がったかっていうのも見なきゃいけないし、これパーセンテージは23人上回るってのは5%程度ってわかるんですけど、普通の休日に比べて何%上がったかっていうのが大事で、例えば結構最近無料デーっていうのは多いんですけど、5%っていうのは多分すごく低い値で5%しか上がらないといった相当低いと思います。

それなのか、前年度23人上回るとありますが前年度より利用者数自体を上回ってるはずなんで、実は上回ってるって言ってもゼロなのかもしれない。前年比何%増だったとしたら、その分だけこれが低く見なきゃいけないってなりますので、そういうことも気になりました。

乗り方教室は、小学3年生は合計で何人参加したかっていうのはちょっと必要だと思います。

あと5ページ。

ずらっと未達成って並んでいるんですけど、とても寂しいことで、さっきの増加しててよかったっていうのと全く違うことになるんですけど、これは特にコロナの関係でこうなるっていうのはよくあることですが、何とかこれってこういう書き方しかできないのかということ、さっきの資料1のグラフ。こんな未達成ってのは大きく書かないで、むしろあれを出して、ただコロナのこととかもあったので、目標に限ると未達成です。あくまで目標に限り未達成ということを使うことが大事じゃないですか。こっちのこの資料1の左側がよっぽどインパクト高いわけですから、これをきちんと書いてアピールすべきじゃないかと思えます。そうじゃないと資料1とこの資料2-3で全く清須市は頑張ってるのかサボってるのか、差が全く違ってくるわけです。そんなサボってるわけじゃなくて頑張っているということを使うべき。

それから8ページ。対応方針として地域公共交通計画の策定ってあるんですけど、地域公共交通計画の策定は対応方針ではなくて、当然やることなんで、こんな対応方針に書いたってしょうがないんですよ。次期計画で一体何を入れ込んでいかなきゃいけないのかが対応方針なんだと。

むしろ11ページの計画評価の推進体制ですけど、ここのスケジュールの中に今年度の場合だと、ここに下にもずっと計画の策定について素案について案について書いてありますよね。これちょっと不思議で、5年度は取り組み状況とか事業評価とかやっているのに、6年度はやってないんですかってなります。だから、これっていわゆる運輸局に求められてる国に求められてることからすると、確かに確保維持改善事業があるんですけど、当然それは毎回やっている上にさらに6年度だと7年度に向けて計画策定しなきゃいけないので、これがオンされたっていう計画についての検討がされたということは書かなきゃいけないんじゃないかと。多分それはさっきの計画策定のところに、計画策定でどういうふうなことをやってるかっていうのを少し書いたほうがいいんじゃないかと、こういう当たり前のことを書かないと。

むしろ今の計画でやってきて、こういう課題があるので、こういう手段を使って、こういうふうにも間もなく策定されることとしていますっていうふうに書かれた方がいいんじゃないかと思いました。そうでないと、単に次期公共交通計画の策定というのをこんなところに書くと、非常に何もやってないような印象を受ける。そういうことはよくない。

2番の啓発活動の継続実施ですが、継続実施は山田さんがさっきご指摘いただいたように、継続じゃなくて、もっと深くやっていかなきゃいけないということだからそういうことを書いておかなきゃいけないように私も感じました。

今回は第三者評価の対象ではありませんか。

なのでこれは自己満足っていうか、自分たちでこういうふうにもとめたっていうことでいいですかね。

(市江主任)

はい。その通りです。

(加藤副会長)

だとすると第三者評価委員会の厳しい先生方に見ていただくわけじゃないんでいいんだけど、とはいえ、運輸局が何でこれを作ったかと言ったら、簡単に今清須市の公共交通政策はこうやってますよって見てもらうため、見てもらうことができるっていうまとめとして作っていて、資料でもここでも説明しているんで、あまりおろそかにしないで、今私が言ったことも含めて考えて見直していただけたらと考えてます。

ということなんで、資料2-3は協議事項と考えなくてもいいとも言えると。もし運輸局に提出するのだったら、ここの内容は精査して、例えば事務局一任で提出するとかみたいなことになるんだけど、今回はこれは自分たちで直しておくということにするのか、それとも今直すことがあるとしたら事務局一任或いは会長に判断していただくというふうにされますかね。

(市江主任)

事務局の市江です。

今ありました通り、この資料2-3の中部様式につきましても、第三者評価の対象ではありませんが、中部運輸局の方に提出させていただきたいと思います。そのため、いただいたご指摘を踏まえまして修正した後、運輸局の方に提出させていただきますので、事務局一任でお諮りしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(前田会長)

ありがとうございます。他にご意見ありませんか。

(柴田委員)

柴田と申します。子供さんに向けての乗り方教室はありますけれども、年配の方々のそういった乗り方教室みたいなのも開けていただけたらいいなと思ひまして、紙ベースでは読んでもなかなか理解できないこともあり、百聞は一見にしかずとも言いますので、そういう機会を作っていたらいいのかなと思ひました。

例えば、お年寄りがたくさん集まる機会があつて、うちの近くですと、毎年カルチバ新川でカラオケの発表会がありまして、そこへ聞きに行くとな配の方々いっぱいいらっしゃるの、そういう機会を使つたりしてアピールすればいいのかなと思ひました。以上です。

(林次長兼課長)

企画政策課長の林です。乗り方のチラシとかそういったことは、以前にも対応させていただいた経緯があります。

今のご意見で、実際に学校でやってるような体験という部分に関しては、お年寄りや年配の方が集まる機会があると思ひますので、1度高齢福祉課とかと相談いたしまして、どのようにやっていくのかというのも含めて考えていきたいと思ひます。

(加藤副会長)

乗り方っていうか、僕はいつも思ってるんですけど、走ってるから乗ればいいじゃないと、別に乗り方教室なんかやなくても、そこを走っているでしょうと。僕いつも言ってるですよ。なんであなたはわざわざ来て来て教えてくれば乗ったらわかると思うんですけど、そうやっていうと、本人おっしゃらないんですけど、恥ずかしいとか知らないって思われるのが、何かプライドが許さないとか、そんなプライドなんか意味ないと思うんだけど、知らないんだったら教えてもらったらいじゃんって思います。あと、もしかすると知らなくて乗ると、慣れてないんでいろいろ間違えて運転手さんに怒られるのが嫌だとかね。いろんなことが考えられますよね。

だから、そういう方が例えばわざわざ乗り方教室をやったとして来てくれるとか、全く関心ない方のところへ行って、その乗り方教室やりますって言ったときにちゃんとまともに聞いてもらえるかっていうのは、とても大事なことだと思うんですよ。

個人的には乗り方教室で聞いたって実際足を運んで乗らなきゃ意味ないので、そうすると一番いいのはやっぱり試乗してもらってということかなと思うので、試乗券を配るとかっていうのがいいのかなと思えるんですけど。

ただ乗り方的には、要するに100円をとにかく用意しといてねということと、運賃ですが、いつもバスって乗るとき払うのか降りるとき払うのか違うんで、僕は必ず乗るときに聞くようにしております。乗ったとき払わないと怒られることあるし、払おうとしたら、いや後だよって言われるので、私なんか嫌な気分になるから先に今払ったらいいですかって聞くように僕はしてるんですよ。

ですが、清須でバスを乗るときだったら、どっちでしたっけ。一応、ごめんなさい。

(市江主任)

乗車するときになります。

(加藤副会長)

だとすると、停留所に運賃は乗車ときに支払ってくださいっていうのを大きく書いておいたほうがいい。書いてないでしょう。これ一番乗るときに戸惑うことなんですよ。

なので、そこへ100円乗るときに払ってくださいというふうに大きく書くべきです。

それから、あと一番問題なのは、試乗するのはいいけど、どこ行くか分からないとか、変なとこ連れて行かれたら困るっていうことですよ。だから、乗り方教室をやるとしたら、市内で行きたいところだとどこが思い浮かびますかとか、例えばここ行きたいんだったら一体どうやっていったらいいですかっていうのを時刻表を見ながら一緒に考えるっていうのをやっていかなきゃいけないんだらうなあと。そういうことが出てきます。

子供だったらそういうことを説明しないでしょ。もし高齢者向けにやるとしたら全然違う内容なんです。だからそういうことも考えていた

だけるといいなとちょっと思いました。今のご意見を伺ったんで申し上げます。

(前田会長)

ありがとうございました。

他に委員さん、よろしいでしょうか。

ご質問も無いようですので、ここでお諮りします。

本件に関しまして、ご承認いただくということでよろしいでしょうか。

[異議なしの声]

ありがとうございます。

それでは、これで協議事項(1)の議題を終わります。

続きまして、協議事項(2)「第2次清須市地域公共交通計画(案)について」を議題とします。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(蜂矢主任)

【資料3を説明】

(前田会長)

それでは、この協議事項について、ご意見やご質問等がありましたら挙手をお願いします。

(多田委員)

名古屋タクシー協会多田と申します。

最後にご説明いただきました資料3-3のパブリック・コメントの関係とですね、その結果を踏まえて再度計画の見直しみたいなものがされるんだろうなとは思いますが、本日の会議以外にも、この各委員さんからの意見というものは、このパブリックコメントという扱いになるのかどうかわかりませんが、この計画の修正に対してはどのようなお考えをお持ちなんでしょうか。

といいますのは、実は先週末ですが、私相当細かいことを書いて、清須市さんに送らせていただきました。本日この場ですべからくというのはおそらく時間の都合で難しいのかなあと。こういう部分もあってですね、あえてその内容については控える予定でおりますけれども、実際どうなるのかということを確認をしてさせていただきたいということです。

(市江主任)

事務局の市江です。いただいた意見につきましては、反映できるものは反映して、パブリックコメントの公表までに資料を整えたいと思いますが、今回出た意見の中で、すぐに修正できない案件につきましては、第4回のところでまた計画案としてお諮りする予定でおりますのでよ

ろしくお願いいたします。

(加藤副会長)

多田さんがそういうことだったんで、私も事前にいろいろ申し上げましたけれど、今日この資料3-1で主な修正点についてってのは淡々と修正点を書いてあるわけで、我々が言ったことについて答えたとかそういうことは何もないということなんですよね。

ところが私自身口頭で言いましたから何言ったか、全部覚えてないとなります。どのぐらい反映されたのかわからないんですけれど。

パブリックコメントだったら、それぞれの質問に対してそれぞれ答えるわけでしょ。だとすれば我々の方が弱いわけですよ。パブリックコメントで意見している人よりも。そうでしょ。他のところですよ。パブリックコメントで、例えば今回行った意見とか、パブリックコメント期間中に委員が言ったことをパブリックコメントとして扱うところもあります。

どっちでもいいんですけれど、例えばここで意見言ったら反映できるところは反映してとかっていうのは、そんなことしたら次回忘れてますから。同じこと言うかもしれない。きつと言うでしょうと。大事なことだったら言うのに、反映されてなくて何で反映されてないかもわからない。次回って言われたら一体我々はここで何を話したらいいんですか。パブリックコメントを出す人より弱いじゃないですか。ここで答えなくて、次回はなぜ反映しなかったかって理由も言わないんだとしたら、だったら何なんですかこれは。おかしくない。あんまり他でこういうことは無いと思うんですけど。他って僕は出てるの30ヶ所ぐらいで、全国の何百ヶ所比べたらね、ごく一部しか見えませんが、僕がやってるところは大体そういう感じです。

さっきの事務局一任と言いましたけれど、僕は会長一任にすべきだと思いましたよね。事務局一任だったら答えないでしょ、我々に。おかしくないですか、それ。

僕は多田さんが何を申し入れたかってのは知りたいですね。だって知らなかったら議論できないでしょ。想像もできない。何をおっしゃったのか、僕は多田さんが何も言っていない前提でタクシーのこと何も書いてないじゃないかと。多田さんは一体何やってんですかってこの後発言しようとしてたんですよ。

だから発言してるっていうから何か意見言ってるっていうか何を意見言ってるか聞かないと、僕はそんなこと言えなくなりましたよね。だけど、反映するところはするとか言ってたら、その議論はできないんじゃないですか。一体どうしたらいいですか。

(市江主任)

事務局の市江です。もちろんいただいた多田委員の意見につきましても、本日はちょっと難しいと思いますので、第4回のところでご紹介いたしましたして、内容につきましてもご説明させていただきたいと思えます。

(加藤副会長)

もちろんかどうかなんてわかんないんで、こちらは今こういう発言したってのはもちろんだとか全く思っていないんで言ったんで、もちろんと言われてびっくりしてます。

それから難しいって言われてるけどできないって言ってもらった方がいい。難しいなら言ってくださいよ。難しいのはできるんでしょ。できないって言ってください。できるかできないかでいいです。別に無理強いしてるわけじゃない。

あとは基本的な話として、ここに出てる人間は全員聞いたわけじゃないんですけど、何とかいい計画を作ろうと思って、或いは何とかいい公共交通にしようと思って意見を言ってますよ、みんな。

別にケチつけてることはないですよ、私だってケチをつけに来るような時間はないです。いいものを作ろうとして意見言ってんですよ。そういうことに対してちゃんと誠意を持って答えて欲しいですよ。どうですか。誠意を感じられないんですよ。非常に事務的です。

(林次長兼課長)

企画政策課長の林です。

多田委員からも今回事前にいただいたご意見について、曖昧な言葉のチョイスということで大変申しわけございませんでした。今回の会議についてはお示しすることができなかったというところで、先ほど市江の方からもありましたけども、この部分はしっかり紹介させていただいた中で、その意見の反映につきましては、第4回のところで協議させていただきたいと思っておりますので、その部分に関してはよろしくお願いいたします。

(多田委員)

タクシー協会多田でございます。

今のやりとりをちょっと確認をさせていただくと、パブコメの意見と、本日までの委員さんたちの意見、私の意見、加藤先生の意見も踏まえて、改めて計画案という形で、次回の協議会で示していただける、こういう方向ですか、本来のその協議会の前にパブコメの結果がわかり次第、一緒に見せていただくのが一番ありがたいかなという気はするんですけども。おそらく他の委員さんもですね、気がつかない点だとか言い忘れてんだとか、いやいやこんな大事なことがあったというようなこともあろうかと思っておりますけども、その意見集約をするための期間というものを、このパブコメと並行的にどうしていくんですかということだと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

(加藤副会長)

ちょっと細かいところは何個もあるんだけど、時間をもったいないんで、もし時間があれば言います。大きいところ言うと、これ表紙のイラストは何ですか。これは本番でもこれですか。

(市江主任)

今まで、交通網計画からずっと同じ表紙を使っておりますので、特に変更はしてないものになります。

(加藤副会長)

何か意味があればいいですが、表紙はまず見るじゃないですか。他のところの表紙も見てくださいと、それなりに工夫がありますよ。もちろん昔から同じようになっていっているので、伝統でこれやるのもありですけど、今と比べてみたらあまり意味もないようにも思って、これと清須とどういう関係なのかどうか分からない。だからちょっとこれは見直してもいいんじゃないかなと思いました。皆さん方に絵心ある方がおられたら書いてもらうとか、ある市だと、本当にプロの方に書いていただいたってのもあった。この計画に込めた思いを、その方に話して、イラストにして書いてもらったっていう、それは多分これはあくまで例ですけど。これ5年間やるじゃないですか。5年後に清須の移動がどうなってるかっていうのはこういうふうに話したら、それを書いてもらったと。そういうのもありました。

例えばそういうのってやっぱり表紙見たときに、ああそうかってなったら読みたくなるじゃないですか。今の表示だと読みたくなるのはちょっと思えない、普通に報告書と同じですよ。そこは考える必要があるんじゃないかと思うんですけども、例えばこれは今すぐ出てこないかもしれない。表紙も含めてここで議論するんだと思うんですけど、それこそ時間がある、或いは途中で事務局に言っていただいてこういうのでいいんじゃないかっていう話もあると思います。

あと、僕がやってるところですと、副題をつけて副題は将来像を書くというふうにしてます。将来像って一番大事ですよ。ですが将来像については34ページです。実は今の計画を見ますと、5ページにあります。多分これを間違ってるんじゃないかと、最初私もそう思っていました。

実は5ページは前回、今の計画でして、34ページのが新しい計画。あと見比べてると「快適に」は入りました。「快適に」を入れるのは何か議論しましたっけ。それから「快適に」を入れるんだったら一体今の計画とどこが違ってなきゃいけないかというのはここで議論しましたかね。すいません。あんまり覚えがないです。これ。ここはある意味大きな変更。

それから将来像は、いつごろのことを考えてるのか。例えば2050年なのか2030年か、それともこの5年後のことなのか、ここが不明確。例えば2050年であるとしたら、ここにかなり遠い目標でもいいと思うんですけど、2029年で実現できるような内容なのかどうかってのは精査しなきゃいけないんですけど、誰もが快適にってのは可能なのか。それからこの計画に誰もが快適にっていうことが紐づけされた政策があるのかどうか、そこが十分精査されていないような気がしました。ですよ。というのは基本方針も変わってないんですよ。

基本方針は、36ページと5ページ、これは全く同じでしょ。本当にこれ、基本方針のⅠⅡⅢってのが不変でいいですかこれ。不変で「快適な」って付け加えていいんでしょうか。

普通「快適な」って付け加えるんだったら、不変じゃないんじゃないかと思われる。私も個別の政策も見てたんですけど、実は将来像ってところが埋没してるのでそうなっちゃったのかもしれないと思いました。

だからこの将来像だとか基本方針っていうのが、将来像は快適なが入り、基本方針は不変で、かつ、基本方針に紐づけられて政策はあるんですけど、将来像との関係が不明確、ていうのが問題かなと思ったけど、それは 2050 年だとかいう遠い将来に快適で誰もがっていうのを実現するってことだったらそれでもいいかもしれないけど、将来像がいつの将来像なのか不明なので、議論がしにくいなということが気になったということです。

あと、関連して 5 ページからのフォローアップですけど、これはフォローアップなのって一瞬思った。さっき言ったようにここにあると、今の計画のことだと思いましたということです。それからフォローアップっていうのは、7 ページの④の△とか、あと 8 ページ以降の実施実施実施ってのは 2 行書いてあって多分上が計画で、下が実績と想像するんですけど、想像するってのは、よく見てもわからないから想像なんですけど、多分そうだと思うんですけど、実際どうだったかっていうところの差が大事だと思うんで、7 ページの一番右のところ例えば赤で囲うとか、8 ページ以降のところは実施した結果として、実際どうだったかっていうところは赤字で囲うとか或いは実施する予定だったけどしなかったとか、差分をちゃんと書くとかそういうこともしないといけないと思います。総じて言うと、とてもフォローアップの章には見えないとなります。

ここは、例えばこのフォーマットだったら、今の計画で何を考えてるかとかフォーマットをそのまま入れますかね。もっとさらっと書いたほうがいいのかなど。そうでないと、今の計画はこれだと見間違えると。もう 1 つは、その後ろのところがフォローアップのはずなのに、むしろ前の計画の目標が何だったかとかっていうのがずらっと書いてあって、フォローアップに見えない。フォローアップは実際できたかどうかのところなんでそこが強調されなきゃいけないのに、あんまり浮かんでこないってところが問題となりました。なのでそこはちょっと見直していただきたいということです。

あと 2 章で課題があるんですけど、13 ページ。僕は一般的に講演とかでもこういう章はなるべく要約して載せて、こういう細かい内容は付録にしてくださいと申し上げてます。本文にとって必要十分な内容かどうかっていうことが大事ですけど、僕の中ではやっぱりこの内容だけだったら必要十分じゃないところが多いんじゃないかと。フローとしては必要ですけど、結局必要十分ってのはどういうことかっていうと、4 章 5 章で基本方針とか将来像とか、或いは具体的な施策とかで出てくるときに、何でこの施策が出てくるかってのが 3 章で端的に書いてあればいいと。具体的に何でこれが出てきたかって言ったら、この 13 ページからの細かい記述があれば良いっていう感じでいいと思うんですよ。

なのでここはこのままでいいですけど、僕は何でこの 3 章がここにあっちゃいけないって言ってるかっていうと、結局どこが計画の始まりかわかんないというのが大きいんですよ。今 34 ページが、実はこの計

画の本当の始まりなんですよね。だけど、5ページが計画の始まりだと解釈したというのはやっぱり5から34ってのが非常に冗長で30ページもあるからそう見ちゃうんですよ。なので、この3章もちょっと課題のところだけだったら、もう明確にあえて書いてあるんで、課題のところだけ絞ってだして、全体としては後ろに行った方がいいし、あと後ろに行くにあたっては、今日の資料1のバランスっていうのわかりやすいんでこれなんか、むしろこの5年間でどうなったかってのを載せておいた方が、つまり、各ルートと全体のあしがるバスの利用状況の増減、これはコロナでこの5年間報道されたことの最終的なところとして戻ってこれたってすごく大事なことだと思うんですよ。

これむしろ課題っていうところに、とりあえずあしがるバスはいろいろ言ってるけど、かなりやれることをやったと。結果、まさにこれこそアウトカムで、コロナまで戻せたところはそうないんですよね。戻せたところが上回ったと。加藤がさっき6年上期はどうなってんのかと言ってたけど、それだって、前よりちょっと下がったと言ったってほぼ同じか上になっていると言うことは、カチッとさえいいうことで、ただ最後曇りになってきてるんで、どういうふうにしていくかっていうのが課題だとして出てくると、そういうふうにかければいいんだと思います。

あと、41ページ。今回修正のところで、乗り継ぎを考慮したバスルート設定をルートダイヤの最適化に包含したということですけど、最適化という言葉は、僕の卒論発表したときに、最適化という言葉を使って、当時の教授にめちゃくちゃ怒られた。こんな都市とか交通は生き物だと、最適化できるわけないだろうと、目指してはいるけどってすごい怒られてその時は心の傷です。今これ見たとき、やっぱり最適化は無理だと思います。常に改善って言ったほうがいいんだと。実際それをここでもやってきたから、あしがるバスルートダイヤの改善と言った方がいいんじゃないかと。最適化なんて言ったらできるわけないことなんだよ。なのでここはこうやって統合したので、余計統合する内容が乗り継ぎを考慮したルート設定っていう極めて具体的な内容だったんだよ。これが最適化に行っちゃったんで、ちょっとおしいなと思った次第です。

それから追加したことで、61ページですけど、ちょっと驚いたんですけど、達成度指標がありますね。この中で、あしがるバス1便当たりの利用者数が一番最後にあるんですけど、2034年度8.0人ですけど、達成できますかこれ。8.0人って不可能ですよ。よほどサクラルートがたくさん乗っていただけないと不可能。多分、8人乗ったらいっぱいじゃないですか。だから僕が思うには、まずこれ総合計画なんですよね。総合計画を前も同じようなことやってくれて、あしがるバスの認知度100%という目標出されたんで100はないよと。せめて99にしてくれと言ったんですけどあとのまつり。これ12月策定だからもう策定されちゃったんですかね。こういう一番大事なところがこんなふざけてますこれはつきり。ありえない。こんな有り得ないことをなぜ出してくるのかと。あとでこれ言わなきゃいけないことが僕は嫌ですが、残念ながらこうなっちゃってるんで、どうしたらいいのかなという思いがある。だからこういうことにならないように、総合計画とかでもこうなったらこれやんなきゃいけない。実は名古屋市役所はこの間同じような議論をして、

総合計画で書いてあるけど、地域公共交通計画ではちょっと齟齬があるよねと言って、総合計画何やってんですかねって言ったら、実は自分が総合計画策定検討会の委員の方で、ちゃんと見てなかったなって感じだったんですけど、今回は全然全く見てなくて、ここで初めて見ましたと。もうどうしようもないのかもしれませんが、こういうことないようにこれからしていただきたいということです。以上です。

(多田委員)

加藤先生いろいろありがとうございました。

先生が一番最初の評価のところの資料の 11 ページですかね。何もやっていないように思われてしまいますよというのが、恐らくはこういう言い方はよろしくないかもしれませんが、そこに代表されるような今のご意見ではなかったのかなというふうに受けとめております。

それから子供さんだとか、高齢者の方々とかどうするんですかという話が、やっぱり話題としてあったと思います。この計画にどういうふうに反映されてるんですかを見ると、従来と同じなんですよ。

障害者の方、福祉有償運送の必要性、これはわかりますけれども、本来はそこにもっと重点を当てるべきだろうと思いますし、高齢者の方々がどこにも出てこないんですよ。それは本当にそれでいいんですかという話と、この 1 ページに「地域公共交通計画とは」といういわゆる概念、一般論が書いてあるんでしょうけども、こういうことがこの計画の中にどういう形で反映されてるんですかということが、残念ながら私の目ではちょっと確認ができなかったなあというのが一番大きな部分でございます。

この部分はですね、清須市さんには会議で申し上げますよということはお知らせをさせていただきましたので、24 ページを見てください。タクシーの今までの評価という話なんでしょうが、一言で言って、評価と課題が混同されてるなという話が 1 つでございます。

それから、いろいろ書いてあるんですけれども、子育て世代の利用割引や台数の増加、営業時間の延長、さらにその下ですね、名古屋交通圏では土曜日の深夜の時間帯でタクシー車両が 200 台不足している、この根拠は一体何ですかと、こういう話なんですけれども、これはおそらく国交省さんがプレス発表した、いわゆる自家用車活用事業ということで、その時のプレス資料が大体 190 台だったので、こういう書き方をされたんだろうとは思いますが、これはある時期、一定の曜日時間帯をとらえたものであって、この数字はもう刻々と変動しております。それを評価というようなどらえ方をされると、タクシー業界としては申し訳ございません、非常に憤りを感じます。これはおそらくコンサルさんの書かれた文章だとは思いますが、ご認識を改めていただきたい。

それから、割引云々というお話もありますけども、すでに名古屋のタクシーは、大多数が割引をやっております。やってない箇所も事実あります。高齢者割引はもうほとんどやってると思います。

それともう 1 つ、先ほどの名古屋交通圏ではに戻りますけども、ここに名古屋交通圏のことを書く必要があるんですかということなんです

よね。清須市のタクシーの状況はどうなんですかっていうことを書くのが、私は本来は評価なのか、課題になるかわかりませんが、次に繋がっていく問題ではないのかなと、そういうふうに思いました。

いろいろ踏まえるようなことを、もっと細かく書いて出させていただきました。これは委員さんにも見ていただければというふうに思っておりますので、ちょっとこの辺の書き方としてはですね、タクシー業界からすると、非常に残念でした。

(加藤副会長)

内容は内容として、ちょっとこれからの進め方を一応確認したいんですけど、パブコメは1月9日から30日間やって、会議はどこでしたっけ。

(市江主任)

第4回の会議はまだこれから通知するところではございますが、3月4日を予定しております。

(加藤副会長)

私がちょっと重要な予定が入ったので、今日通知できなかつたかもしれません。申し訳ございません。

そうすると、まずパブコメに何を出すかっていうことってというのは、ほとんどこの内容ですか。実際問題として。

(市江主任)

内容はこちらの内容で進めております。

ただ、今いただいたご意見多数ございますので、それは第4回の会議のところまでで、反映させた形でお諮りさせていただきたいと思っております。

(加藤副会長)

概要的なものはありますか。

つまりやっぱり怖いのは、さっきの5ページです。5ページがそのまま出ると、これが今回の計画と勘違いされる可能性があるんじゃないかというのはちょっとあって、これこのまま出しますよね。他のところでしたら概要しか出さないところもあり、細かいところまで出しても逆に読めないんで、概要しか出さない或いは概要を表に出して、本冊子はもちろんウェブサイトで見られるけど、あんまりそれよりも概要見てくださってというふうに誘導されるところもあるなど。

別にそこは問わないんですけど、これ一番心配なのは、やっぱり本冊子は分厚いんで、最初から見てたときにこの5ページのところに、本計画の一番の大事なところがあるのか、勘違いされるのが一番恐ろしいなと感じました。

なのでちょっとだけでも体裁を変えるとか、そう見られないようにされた方がいいかなっていうのはちょっと思いました。

あと、2月7日までやって、それに合わせて今日以外のご意見を委員

の皆さんからいただき、全体の意見をズラッと書いたものと対応を書いたものをチェックして、3月4日の協議会に、基本的にはそこまでに潰せるものは潰しておいて、出来れば微少がいいんだけどそういうご意見いただいて、3月策定という流れでいいですか。

(市江主任)

そのようなスケジュールで進めさせていただきたいと思います。

(加藤副会長)

あと内容的に今の段階でもうとても3月に間に合わないみたいな或いは予算的にどうだとかいろんな事情により3月は無理っていう場合もあるんです。多分清須の場合はそこまでにはならないと。あくまでもこれは見込みであって実際そうであるやらなきやいけなきや、延期もあり得るといことなんですけどその辺はどうですか。一応可能性としては3月に策定したいっていう思いは共有しておりますけど、絶対そこにやらなきやいけなかってありますか。

(市江主任)

先ほどの協議事項(1)でもありましたとおり、あしがるバスにつきましては補助金を受け取っております、現計画につきましては認定を受けております。

その関係で3月上旬までに策定し、変更の手続きを行う必要がありますが、もし3月の会議のところで承認をいただけない可能性もゼロではございませんので、こちらの対応の方は支局の方と相談して、準備の方はさせていただきたいと思います。

(加藤副会長)

計画と補助の紐づけになったんで、お前がやったんだろうっていろいろとまたここも辛いところなんですけど、そこがちょっとややこしくなったんです。

やはり計画後これから5年間どうやるかってことなんで、とても大事なものですから、あんまり3月末で策定しなきゃいけないので、ここは妥協したってしたくないですよね。だから、今おっしゃったことは非常にありがたいことだと思いますので、ただとはいえ、その場合は計画延長も考えられる。当面の間、あくまで暫定的に今の計画は延長して、再度決議するみたいなことになるんだろうと。これは過去、私も何回もやっておりますけど、何とか3月までに新しい計画にできるためには、これからの3月4日までのこの段取りがすごく大事で、委員の皆さんにもそういう心構えでいてもらわなきゃいけないんだろうと。

今日いろいろと特にねご老人に対してどうかっていうのが出たのでその辺りはこれから強化していく必要があるかなと思いましたが、ちょっと私自身も委員の立場で、円滑にこの計画策定できればいいなと思いますので、ちょっと注意点を申し上げたということです。

(前田会長)

ありがとうございました。

他に委員さん、よろしいでしょうか。

ご質問も無いようですので、ここでお諮りします。

ただいま各委員さんからご指摘もあった中で、それに対処していくことも事務局としては必要でございますので、委員さんの発言を含め、これに対応していくということで、ご承認いただくということでよろしいでしょうか。

〔異議なしの声〕

ありがとうございます。

それでは、これで協議事項の議題を終わります。

3 その他

(前田会長)

以上で、本日予定されておりました議事は全て終了いたしました。

慎重にご審議いただきありがとうございました。

ここからは、次第の「3 その他」に移ります。

事務局から報告事項がありましたらお願いします。

(市江主任)

特にございません。

(前田会長)

最後に、この他のことで、何か委員の皆様からございますか。

(高井委員 (代理))

名古屋鉄道の夫馬でございます。よろしくお願ひいたします。

お手元にA4の白黒で2枚ホチキス止めしたものがあまして、あとカラー刷りの1枚、パパを連れ出そうというこちらですね、リリース原稿とそれからチラシの方ちょっとご参照いただければなというふうに思います。

私どもは、名古屋鉄道といたしまして、少しでもこの公共交通を利用していただきたいということを思っておりまして、ちょうど21日から来年の2月末日までですね、子どもmanacaお出かけキャンペーンとして小児運賃相当額をマイレージポイントで全額還元するというキャンペーンを行っております。この目的でございますけども、やはり将来を担うお子様、それから子育て世代、お母さん、お父さんをターゲットとした施策の実施によりまして、潜在需要を少しでも創出を図れないかなということ、幼少期から公共交通の利用を親しみを持ってもらうことによりまして、この公共交通及びこの沿線地域の活性化につなげられるようなきっかけとしたいということで、このようなキャンペーンを実施をさせていただいております。

内容といたしましては、名鉄電車を、小児用manacaでご利用されま

すと、まずマイレージポイントによって還元という仕組みでございませ
けども、単純にですね、一旦ひと月分の小児用 manaca で乗車された金
額を翌月の 10 日以降にマイレージによって全額還元をすると。つまり
1 回だけはタダになりますよという施策でございませ。

ちょっとこの子ども用 manaca とか、使い方がいまいちよくわからな
いということもあるんですけども、ちょっとこのマイレージポイントや
やこしいんですけども、一旦 1 ヶ月分 manaca で乗車をされた分を、翌
月にまずセンターポイントという形で積み上げまして、そのセンターポ
イントというものを、駅の自動券売機等にあるマイレージ還元というこ
とを、ご自身でやっていただく必要があるんですけども、そういった形
で還元をして、初めてそのマイレージポイントになった時点で次のです
ね、例えば名鉄とか或いは地下鉄とかですね、市バスとかいう乗るとき
にお使いいただけますよという仕組みでございませ。

ぜひ先ほど来ですね、なかなかバスの話が多かったんですけども、バ
スの乗り方がなかなか難しいよとか、そういったお話もありましたが、
やはり少しでもこの公共交通、私ども鉄道でございませるので、少し
でも公共交通を利用していただきたいという思いからこのようなキャンペ
ーンを行っております。よくあるのは、大体 60 代 70 代までですね、ず
っと車に乗っていてバスも電車もあんまり乗ったことがないといった
ような方がですね、いざいよいよ免許を返納しまして、さあいよいよバ
スに乗ると、電車に乗るというときには大体 100%とは言いませんが、
9 割以上はですね、乗れないです、乗らないです。

もうその時点では乗り方がわからないといったことで、結局どうして
も閉じこもってしまうということになりかねませんので、ぜひこの小さい
ころもそうですし、20 代 30 代 40 代 50 代問わず、まず車社会、車は最
強でございませるので、なかなか車ドアツードアからですね、このいざバ
スに乗ろうと思うと、停留所までが遠いとか、乗り継ぎが不便だとか、
そういった理由でなかなかこの公共交通になかなか使ってもらえない
ところもあるんですけども、ぜひ 1 度ですね、そういったことがです
ね慣れてくれば、少しでもこの公共交通、あしがるバスもそうですし、私
ども鉄道もそうでございませるので、ぜひそういった公共交通利用促進と
いう形でご案内をさせていただいた次第でございませ。

あともう 1 点資料はございませんが、やはりこの清須市の方に外から
来てもらいたいという思いも、実は私どもの方としてはございませ。
もちろん名鉄電車を使って欲しいという、もちろん思いもあるんです
が、そういった観点から、今度 1 月 18 日、来月になりますけども、名鉄
ハイキングっていうのがありまして、須ヶ口駅をスタートいたしまして
中小田井駅をゴールするというハイキングコースがございませ。

主なところといたしまして、尾張屋さんとか、問屋記念館、それから
みずとびあ庄内とか、あとそれからナカモ味噌等々をめぐってですね、
中小田井駅へ向かうということでございませけども、私交通事業者とい
う代表の立場で今こちらに来てるんですが、一方で私清須市民という
ところで旧西枇杷島地区でございませして、実はこのナカモ味噌は立ち寄
り所となってるんですが、実は私がこのナカモ味噌の社長に、ぜひ私
がハイキングのコースを作っているときに、立ち寄りさせてもらえないかと

言ってお話をしまして約8年ぐらい前ですけど、そこ以来ずっとこのハイキングコースのときにこのナカモ味噌も入っているということでございまして、ぜひこういった健康にも繋がるということで、ぜひご参加いただければなというところでございます。以上です。

(前田会長)

その他、よろしいでしょうか。

では、以後の進行は、事務局へとお返ししたいと思います。

よろしく申し上げます。

4 閉会

(神野課長補佐兼企画政策係長)

それでは、これもちまして、令和6年度第3回清須市地域公共交通会議を閉会いたします。

本日はご出席いただき、ありがとうございました。

問い合わせ先	企画部 企画政策課 052-400-2911 内線3214
--------	----------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 前田 繁一

署名委員 佐藤 あつ子

署名委員 柴田 孝子